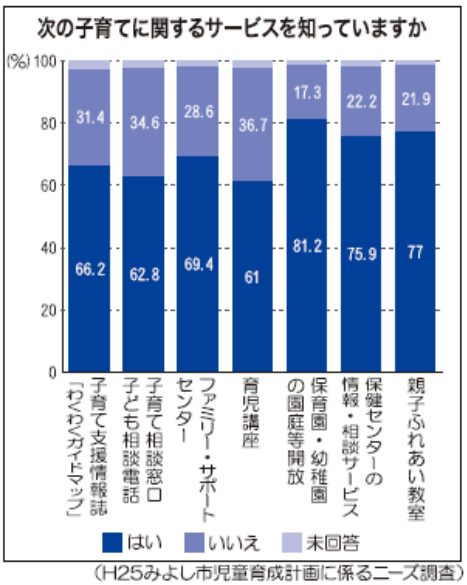
4　協議事項（１）　平成３０年度における「２０の作戦」への取組

作戦①
子どもを持つ市民の子育ての不安を和らげます



（H25みよし市児童育成計画に係るニーズ調査）

現状と課題

本市でも、核家族化や地域とのつながりの希薄化は進んでおり、育児不安やストレスを抱える親の孤立を招く心配があります。一人で悩みを抱えないよう、気軽に相談のできる環境を整えるとともに、育児に関する情報が多くの人に届くように情報の発信の工夫する必要があります。

また、小さな子どもが安心して遊べる場所を作り、友達との関わりを通して社会性を学ぶ機会を増やすことも必要です。

重点施策　(仮称) 子ども総合支援センターでの交流・相談活動の推進

［施策体系Ⅰ－1－(1)ア　P46］

【施策の概要】

子育ての拠点施設として、(仮称) 子ども総合支援センターを設置します。この施設には、
①子育てに関するさまざまな相談に対応し、必要に応じて専門家や関係機関への橋渡しを行う「総合相談窓口」
②市内の子育て支援事業や育児情報を集めた「情報コーナー」
③就園前の子どもが、親子で一緒に遊べるスペース「子育てふれあい広場」
などを設置し、主に就学前の子を持つ親に対し、子どもと一緒に気軽に利用し互いの交流を促すとともに、ニーズに応じた事業を企画するなど、子育てを総合的に支援していきます。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
(仮称) 子ども総合支援センターでの子育て支援の充実	(仮称)子ども総合支援センター改装工事	(仮称)子ども総合支援センター開所	相談内容の傾向分析、ニーズの把握	ニーズに対応した事業の企画	事業の検証拡充

【成果指標】子育てに関する相談相手がいる人の割合

（子育てに係る意向調査）

現状（H25）92.8%　→　目標（H32）95%

※一人でも多くの市民が、子育てに不安を感じなくなるよう、子育てに関する相談相手がある人の割合を増やします

＜参考:29年度末の達成状況の概略＞

・保育コンシェルジュもの来館者への声かけ、相談
・親子工作、わらべうた、手遊び等の行事、毎日２回絵本の読み聞かせ
・ファミリー・サポート・センターの入会説明会や講習会を交流室で開催

D

担 当 課	子育て支援課
① 重 点 施 策	子育て総合支援センターでの交流・相談活動の推進
② H30 行動予定	□平成30年4月から運用開始したみよし市子育て情報ナビ「みよぴよ！」を活用し、市の子育て支援サービスを始め行事やイベント等の情報を積極的に発信する。 □ファミリー・サポート・センター事業のPRのため、交流会を子育て総合支援センター及び地区子育て支援センターで開催する。 □児童育成計画に係るニーズ調査を実施する。
③ 現時点の状況 （５月末）	□アプリダウンロード数 370件
④ H31 行動予定	□児童育成計画（2020～2024）の策定
⑤ H32 行動予定	□児童育成計画（2020～2024）に基づく事業の推進

C 本年度の達成状況

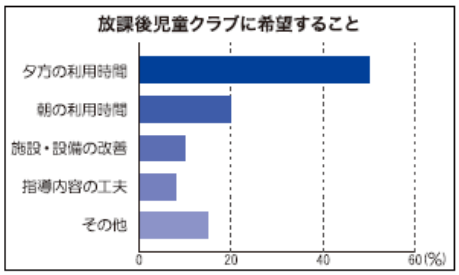
■本年度達成できたことの概略
・

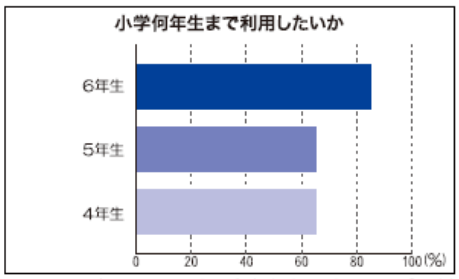
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒A

作戦②
働きながら子育てをする市民を応援します

P





（H25みよし市児童育成計画に係るニーズ調査）

現状と課題

現在、本市には、小学校４年生までを対象に公立の放課後児童クラブが設置されています。平成25年度に行ったアンケートでは、開所時間の延長や、小学校6年生までの対象拡大に対する要望が強いことが分かりました。

本市では、市民の要望に応えるために、夏休み期間のみ6年生までを対象とする試行運用を始めました。

今後は、通年で全ての小学生を対象とする放課後児童クラブを整備し、働きながら子育てをする市民を応援する必要があります。

重点施策

放課後児童クラブによる子育て支援の拡充

［施策体系Ⅰ－1－（2）ア P48］

【施策の概要】

共働き家庭の仕事と育児の両立を支援するために、放課後児童クラブの開所時間の延長を進めます。また、全ての放課後児童クラブで6年生までの受け入れを実現するため、各小学校に第2クラブが設置できるスペースの確保を進めます。児童数増が見込まれる天王小学校には、新しく放課後児童クラブ2室を新設します。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 放課後児童クラブの利用拡大	開所時間の延長実施	空き教室の放課後児童クラブへの転用を検討	天王放課後児童クラブ新設	全放課後児童クラブで対象を6年生まで拡大	→

【成果指標】放課後児童クラブの利用児童数（子育て支援課調べ）

現状（H26）
376人

→

目標（H32）
478人

※放課後児童クラブを利用したいと考えている家庭が利用できるよう整備を進めます

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・天王児童クラブ建設工事が完了（平成 30 年 2 月 26 日から運用開始）

・中部児童クラブ建設工事設計業務委託が完了（平成 30 年度建設予定）

・天王、三好丘、緑丘の第 2 教室の開所準備を実施（平成３０年４月開所）

D

担 当 課	子育て支援課
① 重 点 施 策	放課後児童クラブによる子育て支援の拡充
② H30 行動予定	□H31開所に向け、中部児童クラブの建設工事を実施する。 □南部、三吉、黒笹児童クラブの第2教室の開設準備をする。 □中部、南部、三吉、黒笹児童クラブの運営委託を行うため、運営事業者をプロポーザルにより決定する。 □放課後児童支援員研修を受講させ、資格認定者の増員を図る。
③ 現時点の状況 （５月末）	□北部、天王、三好丘、緑丘児童クラブは、各2教室を開所し、6年生までを対象学年とし、運営を民間事業者に委託している。 □中部、南部、三吉、黒笹児童クラブは、各1教室を開所し、4年生までを対象学年とし、運営を市直営で実施している。
④ H31 行動予定	□中部、南部、三吉、黒笹児童クラブを、各2教室開所し、6年生までを対象学年とし、運営を民間事業者に委託する。
⑤ H32 行動予定	□児童育成計画（2020～2024）に基づく事業の推進

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

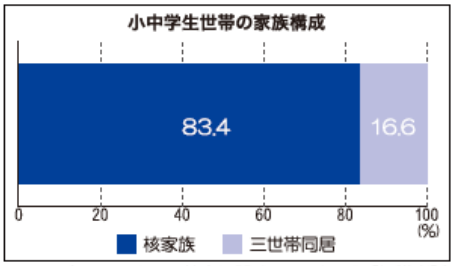
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒A

作戦③
子育てに役立つ情報をたくさん発信します

P



（H26みよしの教育に関するアンケート【保護者】）

小学校の６年生の娘がいます。スマートフォンを持たせるには家庭でルールづくりが必要と聞くけれど、どのようなルールをつくれば良いのか、よくわかりません。（行政区ヒアリングより）

現状と課題

本市でも、三世代同居世帯は減少し、核家族の家庭が増加しています。親しい近親者から気軽に子育てのノウハウを得ることは、昔ほど簡単なことではありません。インターネット社会の中で、家庭教育に関する情報は氾濫していますが、あやふやなものも多く、住んでいる地域に合った正しい情報が市民から求められています。

また、市内各所で開かれる教育に有益な催しや行事も増加しており、簡単に情報を得られる仕組みづくりも必要とされています。

重点施策

家庭の教育力向上のための啓発活動の推進

［施策体系Ⅰ－1－（3）ア P48］

【施策の概要】

みよしの家庭教育に対する指針づくりを進めた後、「広報みよし」と共に、家庭教育だよりを発行します。また、小中学校や児童館、スポーツ施設などで行われるさまざまな教育関連の催しの情報を、教育カレンダーとして一覧配布することで、市民の幅広い参加を促します。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 家庭教育だより・教育カレンダーの発行	みよし市家庭教育推進指針の作成	市民に伝えたい教育情報の整理・紙面構成検討	家庭教育だよりの発行	教育行事予定集約の仕組みづくり	教育カレンダーの発行

【成果指標】広報と共に配布する家庭教育だよりを読んでいる保護者の割合

（みよしの教育に関するアンケート【保護者】）

現状（H26）
―

→

目標（H32）
70%

※多くの市民に読んでもらえるような家庭教育だよりを発行し、市民の教育力向上を図ります

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・本市の家庭教育の状況を把握し、家庭教育力の向上に必要とされている事項をリストアップした。

・年度ごとに取組みの柱を設定し、毎号に特集記事を作成することを決定した。(平成 30 年度は、年 6 回 (2 ヶ月に 1 回)「広報みよし」に掲載)

D

担 当 課	教育行政課
① 重 点 施 策	家庭の教育力向上のための啓発活動の推進
② H30 行動予定	□広報みよしの中で、市民の家庭教育力向上に繋がる情報「家庭教育だより」を掲載する。 ・ ページ名 ： はぐくみ （HUGしてはぐくむ おやこそだち） ・ 発行予定 ： 年6回 （5/1 号、7/1 号、9/1 号、11/1 号、1/1 号、3/1 号）
③ 現時点の状況 （５月末）	□5/1 号の広報に第1回はぐくみを掲載 7/1 号原稿作成
④ H31 行動予定	□広報みよしの中で、年6回 「はぐくみ」掲載
⑤ H32 行動予定	□広報みよしの中で、年6回 「はぐくみ」掲載

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

作戦④
子育てに困っている家庭をたくさんの手で支えます

P

児童相談所などの行政の諸機関や、医師などの専門家と連携が必要なケースもあります。
今後は、子どもを取り巻く人々がさらに連携していく必要があります。
（学校ヒアリングより）

担任として、不登校の子どもには家庭訪問を繰り返していますが、簡単には改善しません。学校とは違った角度から本人や保護者を応援する仕組みがあると良いのですが…。
（学校ヒアリングより）

現状と課題

子どもを取り巻く環境は複雑化しており、虐待やネグレクト（育児放棄）などの深刻な問題を抱える家庭も増加傾向にあります。また、不登校状態から抜け出すことの難しい子どももいます。

このような家庭に対して、各学校はチームを組んで対応していますが、問題の根は深いことが多く、解決までには多くの時間を要します。積極的に家庭に関わって助言をしたり、学校や専門的な機関と家庭とを結び付けたりしながら解決を図っていく人材が求められています。

重点施策　困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実

［施策体系Ⅰ－1－（3）イ P49］

【施策の概要】

子育てに困っている家庭を支えるために、（仮称）みよし市教育センターを中心とした教育相談体制を強化します。学校や専門的な機関（行政・医療など）と家庭を結び付けたり、家庭教育支援員を配置したりします。家庭教育支援員とは、様々な課題を抱えている家庭の相談にのりながら専門機関による支援体制を確立したりする人材です。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
拡充 教育相談体制の強化	（仮称）みよし市教育センターを中心とした教育相談体制の強化				
	家庭教育支援に関わる職員の配置（1名）	（仮称）みよし市教育センター開所		家庭教育支援に関わる職員の配置（2名）	

【成果指標】教育相談体制の充実（学校教育課調べ）

現状（H26）
- 発達に関すること　189件
- 不登校に関すること　14件
- 学校・家庭生活に関すること　14件

※長期の相談待ちなし

→

目標（H32）
速やかに相談ができ、不安を軽減できるような相談体制の整備拡充

※専門相談員との定期相談ができたり、必要な諸機関・専門機関と連携ができたりする、より良い相談体制を整備・拡充します

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・適応指導教室での児童生徒の学習支援や自立支援（毎日）
・市心理相談員及び専門相談員は、のべ 663 件（2/22 時点）の相談活動
・個別支援検討会議等、関係機関と連携して児童生徒を支援（随時）

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実
② H30 行動予定	□教育センター「学びの森」の開所に伴う教育支援センター機能の拡充 ・適応指導教室の運営や相談活動、学校支援の充実 ・学校や関係機関との連携を深めることにより、より良い相談体制の整備・拡充を図る。 □相談活動について広報やチラシ配布による保護者への周知 □保護者も加えて個別支援検討会議を開催するなど、関係機関、学校、保護者との連携をさらに深める。
③ 現時点の状況 （５月末）	□不登校児童生徒のための適応指導教室では、学校との連携を図りつつ、生徒を支援することができている。 □今後、広報やチラシの配布等によって、保護者への周知を図る。 □今後、関係機関、学校、保護者との連携を図りつつ、個別支援検討会議等を開催する。
④ H31 行動予定	□教育センター「学びの森」における家庭教育支援等のための市専門相談員の配置（2名）
⑤ H32 行動予定	□速やかに相談ができ、不安を軽減できるような相談体制の整備拡充

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略
・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒A

作戦⑤
自ら考える力のつく、楽しい授業を増やします

P

（H27「考えることを楽しみ、学び続ける個の育成」【緑丘小】）

（前略）そのために必要な力を子供たちに育むためには，「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと，「どのように学ぶか」という，学びの質や深まりを重視することが必要であり，課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や，そのための指導の方法等を充実させていく必要があります

（平成26年11月20日中央教育審議会への諮問）

現状と課題

現在、本市では、話し合いやペア・グループ活動を取り入れた、学び合いを大切にした授業づくりが各小中学校で実践されています。このような主体的で協働的な学びのスタイルは、未来を生き抜く子どもに最も必要とされているものです。

こうした主体性や協働性を大切にした授業づくりや学校づくりを実現するためには、キャリアステージに応じた系統的な研修を、教職員が積み重ねていくことが必要です。教職員が資質を向上させ、楽しい授業づくりに力を発揮することが強く求められています。

重点施策　主体的・協働的な学びを生み出すための、教職員の資質向上への取り組み

［施策体系Ⅰ－2－（1）ア P50］

【施策の概要】

（仮称）みよし市教育センターにおいて、キャリアステージに応じた教職員の資質、能力の向上を図る研修を進め、楽しい授業づくりを目指します。

- 教職員一人一人のキャリアに応じた研修計画を立案します。
- 研修を通して、「わかる授業」「できる授業」「楽しい授業」づくりを実現します。
- 生徒指導、学級経営など授業づくり以外にも幅広い研修を行い、教職員の総合的な資質の向上を図ります。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 みよし市教員研修計画の作成	新学習指導要領実施に向けた研修計画の見直しと作成	キャリアステージに応じた教職員の資質向上指針の作成	新学習指導要領に対応した評価基準の作成	→	研修状況の点検と見直し

【成果指標】「毎日の授業に満足している」児童生徒の割合

（みよしの教育に関するアンケート【小5・中2】）

現状（H26）
小学生 80%
中学生 69%

→

目標（H32）
小学生 85%
中学生 75%

※教職員が指導力を磨き、「わかる授業」「できる授業」「楽しい授業」を行うことで、子ども自身の日々の授業への満足度を向上させます

D

担 当 課	学校教育課

① 重 点 施 策	主体的・協働的な学びを生み出すための、教職員の資質向上への取り組み
② H30 行動予定	□新学習指導要領実施に対応するため、特に次の点に関する資質向上を目指す。 ① 「特別の教科道徳」の授業づくり ② 本市のカリキュラムに沿った小学校外国語活動の展開 ③ プログラミング学習の試行 ④ 「深い学び」を実現する授業づくり □平成29年度作成のキャリアステージに応じた「みよし市教職員研修実施体系」に基づいた各種研修の実施
③ 現時点の状況 （５月末）	□新学習指導要領実施に対応するため、各校の講師招聘現職教育についての情報共有を図り、他校からの参加を促している。今後は、参加者数を把握していく。
④ H31 行動予定	□新学習指導要領に対応した評価規準の見直し
⑤ H32 行動予定	□研修状況の点検と見直し

＜参考：29年度末の達成状況の概略＞

・研修の充実と多忙化を招かない方法での新たな研修計画を作成

・キャリアステージに応じた教職員の資質向上指針を活用し、本市の研修全般の見直しを進めた。

C　本年度の達成状況

■本年度達成できたこと の概略

・

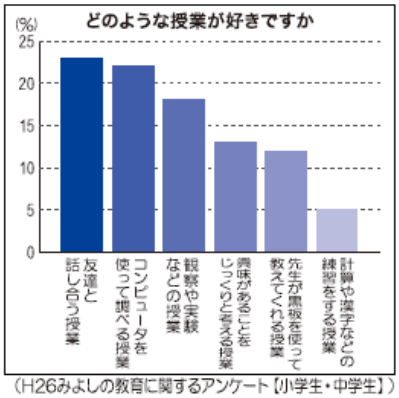
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒A

作戦⑥
ＩＣＴ環境を整備し、新たな学びを創造します

P



（H26みよしの教育に関するアンケート【小学生・中学生】）

	国が示す整備目標（H29）	みよし市の整備状況（H26）
教育用PC	3.6人/1台	11.6人/1台
電子黒板	1台/1教室	0.35台/1教室

（H27学校教育課調べ）

現状と課題

本市では、コンピュータ教室や電子黒板、インターネット回線などのＩＣＴ環境整備を進めてきました。各学校でも、それらを活用した学習の仕方を工夫して教育活動を行っています。そのため、コンピュータを活用した授業は、子どもたちの関心も大変高いです。

国は、21世紀を担う子どもには、情報社会に主体的に対応する能力を身に付けさせることを教育改革の柱の一つにあげています。教育用コンピュータや電子黒板を、国が示す整備目標の水準に近づけ、それらを活用した探究的・協働的な質の高い学習を進めることが急務とされています。

重点施策　ICT教育の推進

［施策体系Ⅰ−2−（2）ア P51］

【施策の概要】

本市では、コンピュータや情報通信ネットワークなどを授業に有効に活用した子どもの思考力・判断力・表現力を育むための授業改善や、情報モラル教育のあり方についての調査研究・実践を積極的に推進します。また、そのために必要となるICT機器に関する環境整備をさらに進めます。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 ICTを活用した授業づくりへの環境整備	ICTを活用した授業や情報モラル教育についての調査・研究	ICT教育に関する研究委嘱小中各1校	ICT教育に関する推進計画の策定	推進計画に従ったＩＣＴ環境整備の開始	→

【成果指標】教育用コンピュータ1台あたりの児童生徒数

（学校教育課調べ）

現状（H26）11.6人 → 目標（H32）4人

※グループに1台の移動式PCを導入した授業の実現を目指します

＜参考:29年度末の達成状況の概略＞

・タブレット端末を用いた公開授業を年間５回実施し、効果や課題、改善点を授業参観シートに集約
・プログラミング教育に関する研修会の実施
・ＩＣＴ環境整備計画の方向性と情報セキュリティ実施手順について協議

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	ICT 教育の推進
② Ｈ30 行動予定	□教育情報化推進計画の策定及び策定会議の実施 ・6月と12月に実施する教育情報化推進会議を策定会議と位置づけ、本市がめざすICTを活用した授業スタイルの確立やICT機器の選定について協議する。 ・平成31年度から5年間のICT機器整備計画を含む教育情報化推進計画を策定する。 □小学校プログラミング教育の推進 ・プログラミング教育に関する教員研修の講師を各校に派遣 ・近隣の学生をメンターとした出前授業の斡旋
③ 現時点の状況 （５月末）	□本市がめざすICTを活用した授業スタイル（案）作成 □小学校におけるプログラミング教育年間計画の作成
④ Ｈ31 行動予定	□教育情報化推進計画に従ったICT機器整備を開始
⑤ Ｈ32 行動予定	□小学校新学習指導要領実施にともない、小学校プログラミング教育を完全実施

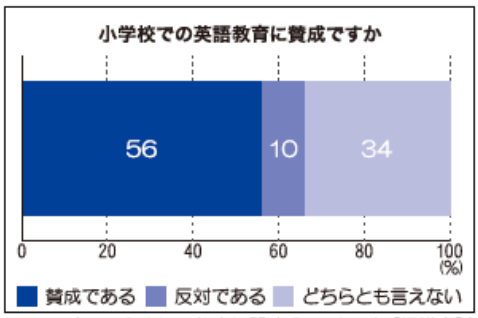
C　本年度の達成状況

■本年度達成できたこと の概略
・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒ A

作戦⑦
生きた英語に触れる外国語学習を充実させます



（H26みよしの教育に関するアンケート【保護者】）

ネイティブの教師を増やす、会話力をつけるための授業をするなど、「生きた英語」のための教育に力を入れてほしいです。
（行政区ヒアリングより）

現状と課題

現在、小学校高学年では、ALT（外国語指導助手）が担任と協力して12時間（年間35時間中）の外国語活動の授業を、中学校では15時間（年間140時間中）の英語の授業を行っています。また、外国語活動対応非常勤講師も、小学校で年間16時間の授業を行っています。

今後は、小学校高学年から外国語の授業が教科化されるなど、グローバル化に対応した教育が展開されていくため、生きた英語による外国語活動の充実が求められています。

重点施策

ALT・外国語活動対応非常勤講師による外国語指導の充実

［施策体系Ⅰ−2−（2）イ P51］

【施策の概要】

小学校では、全ての授業でALT又は、外国語活動対応非常勤講師が学級担任と共に外国語活動の授業を行い、言語や文化について体験的に理解を図りコミュニケーション能力の基礎を養うことを目指します。中学校ではさらに、身近な話題について理解、表現、情報交換ができるコミュニケーション能力を養います。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
拡充 小中学校へのALT・外国語活動対応非常勤講師の配置促進	ALT・非常勤講師を活用した授業づくりに関する研究推進	ALT・非常勤講師が参加する小学校高学年の授業100%	ALT・非常勤講師が参加する小学校中学年の授業100%	ALTが参加する中学校の授業20%	ALTが参加する中学校の授業25%

【成果指標】ALT及び外国語活動対応非常勤講師が参加する外国語の授業の割合

（学校教育課調べ）

現状（H26）
小学生 80%
中学生 11%

→

目標（H32）
小学生 100%
中学生 25%

※小学校では全ての授業で、中学校では週に1度の授業で生きた英語に触れる外国語の授業実施を目指します

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・英語教育推進リーダーによる講習会、授業研究会、ＡＬＴによる研修
・平成 30 年度からの外国語活動の授業時数について全小学校で統一
・ＡＬＴ・非常勤講師が参加する小学校高学年の授業 100%実施

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	ALT・外国語活動対応非常勤講師による外国語指導の充実
② H30 行動予定	□英語教育推進リーダーによる授業公開・研究会（年2回）、ALTによる研修 □小学校新学習指導要領の時間数での実施に向けて、コマ数の確保について教育課程検討会議にて検討 □ALT・非常勤講師が参加する小学3年から6年までの授業 100%実施 □中学校でのALTが参加する授業を全学級年間23時間実施
③ 現時点の状況 （５月末）	□みよし市小学校外国語活動年間指導計画及び指導案に基づいて授業を実施
④ H31 行動予定	□新学習指導要領の時間数で外国語活動を実施 □中学校でのALTが参加する授業を全学級年間28時間実施
⑤ H32 行動予定	□新学習指導要領完全実施により、高学年で外国語科の開始 □中学校でのALTが参加する授業を全学級年間35時間実施

C 本年度の達成状況

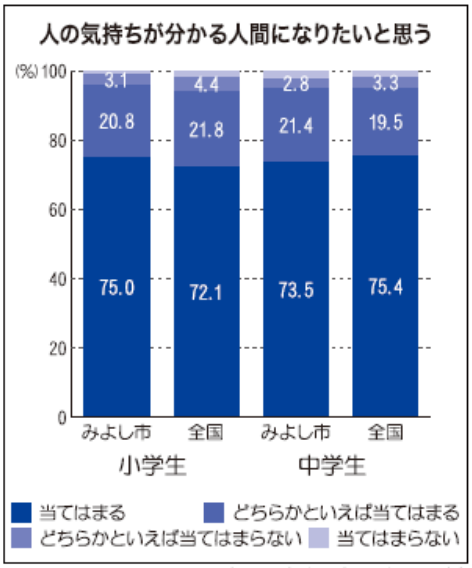
■本年度達成できたことの概略
・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒A

作戦⑧
子どもの心を育てる教育を大切にします

P



（H27学力・学習状況調査）

現状と課題

市内の小中学校では、以前より道徳の研究に力を入れてきました。平成30年には、全国で道徳は「特別の教科道徳」となり、教科化がスタートします。

平成27年度に、子どもに「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」と尋ねたところ、9割を超える子どもが、「なりたい」と回答しました。今後も、道徳の授業などを最大限に活用し、家庭や地域とも連携を図りながら、子どもに思いやりの心を育て、互いの気持ちを想像することのできるあたたかいまちづくりを進めることが求められています。

重点施策

道徳教育の研究推進

［施策体系Ⅰ－3－（1）ア P52］

【施策の概要】

「特別の教科　道徳」を中心に、子どもの心を育てる教育を推進するために、みよし市道徳教育推進プランを策定し、家庭・地域と連携しながら、学校教育全体で発達段階に応じた道徳教育を推進します。また、新しく策定される教科書を活用した効果的な指導法や、子ども自身の振り返りに役立つような評価についても研究を進めます。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 みよし市道徳教育推進プランの作成	人権教育推進地域事業の実施			小中学校での教科化実施	実施状況の確認・改善
	道徳教育研究校による成果発表	教科書を活用した指導法や、評価に関する研究推進	→		

【成果指標】「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」児童生徒の割合

（全国学力・学習状況調査【小6・中3】）

現状（H27）
小学生 75.0%
中学生 73.5%

→

目標（H32）
小学生 85.0%
中学生 85.0%

※教育活動全体を通して子どもの心を育てる教育を推進し、他者を理解しようとする心をより一層育てます

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・市主催による道徳教育推進教師研修会、道徳に関する講演会を実施
・三好丘中学校区の 3 小中学校が連携して人権教育事業に取り組んだ。
・三吉小学校が道徳教育の抜本的改善･充実に係る支援事業を実施

D

担 当 課	学校教育課
重 点 施 策	道徳教育の研究推進
② H30 行動予定	□「特別の教科道徳」の実施に伴う年間指導計画の見直しと、指導方法や評価方法の在り方について協議する。 ・市主催による道徳教育推進教師研修会を実施する。 ・外部講師を招聘して道徳科の授業研究を実施している学校の研修計画を市内で共有し、他校からの参加を促す。 ・道徳科の授業づくりや評価の在り方について各校で研究を進めるための資料・書籍代金を助成する。 □三好丘中学校区人権教育推進地域事業の成果を新年教育研究大会で発表する。
③ 現時点の状況 （５月末）	□市主催による道徳教育推進教師研修会の計画作成 □各校の研修計画を市内小中学校に周知
④ H31 行動予定	□市主催による道徳教育推進教師研修会と各校で実施する研修への参加の促進
⑤ H32 行動予定	□研修内容の点検と見直し

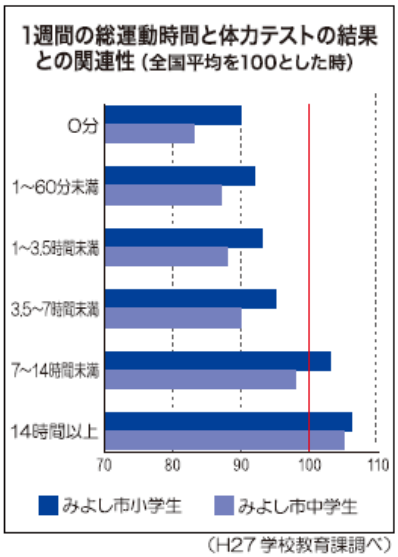
C 本年度の達成状況

■本年度達成できたこと の概略
・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒A

作戦⑨
たくましく健康な子どもを市全体で育てます



（H27 学校教育課調べ）

現状と課題

市内の小中学校では、体育の授業とは別に、運動会や体育祭などの学校行事を通して運動に親しめるようにしたり、子どもが企画するスポーツ大会や休み時間の外遊びを推奨したりして、運動する機会を積極的につくるようにしています。

左のグラフからも分かる通り、1週間の総運動時間が長くなると、体力が高くなる傾向があります。これからのみよしを支える子どもが、生涯にわたり健康でたくましく生きていくために、義務教育段階で運動の必要性や楽しさを伝え、仲間と共に積極的に運動に関われるようにする必要があります。

重点施策

みよし市体力向上計画の推進

［施策体系Ⅰ－4－（1）ア P54］

【施策の概要】

みよし市体力向上計画を作成し、子どもが生涯にわたって運動に親しむ素地づくりに努めます。この計画では、独自の体力向上カードを作成して子どもが自ら運動する環境づくりを進めたり、カリキュラムの研究を行い、発達段階に応じた体つくり運動プログラムを作成したりします。

【進行計画】

新規 みよし市体力向上計画の推進	28	29	30	31	32
	市体力向上計画の推進 →				
	体力向上カードの作成	体力向上カードの見直し	体つくり運動プログラムの作成	体つくり運動プログラムの見直し	→

【成果指標】全国体力・運動能力調査の体力テストの合計点（全国との比較）

（全国体力・運動能力調査）

現状（H26）	目標（H32）
小学生：男子53.1（全国比△0.8） ：女子54.5（全国比△0.5） 中学生：男子41.0（全国比△0.7） ：女子48.1（全国比△0.6）	小学生 全国の合計を男女とも上回る 中学生 全国の合計を男女とも上回る

※実践的な体力向上に取り組むことで、総運動時間を確保し、子どもの体力向上を目指します

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・各校から、体育科の各領域の学習カードをデータで収集
・「体力向上プロジェクト」を市内小中学校へ配付し、活用を促進
・「小 4 プロジェクト」講習会に、教員 41 名が参加

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	みよし市体力向上計画の推進
② H30 行動予定	□平成29年度に各学校へ配付した「ウォーミングアップドリルや運動遊び集」の見直し及び充実を図り、授業での活用を促す。 □「みよしっ子スポーツチャレンジ(仮)」を市の HP に掲載し、市内の学級対抗で大縄跳びの記録等を競い合えるようにする。
③ 現時点の状況 （５月末）	□現在、各学校によって体力テストを実施している。 □今後、体育主任を中心に「ウォーミングアップドリルや運動遊び集」の見直しや充実を図ったり「みよしっ子スポーツチャレンジ(仮)」を計画したりする。
④ H31 行動予定	□体力向上プロジェクトの見直し
⑤ H32 行動予定	□体力向上プロジェクトの見直し

C 本年度の達成状況

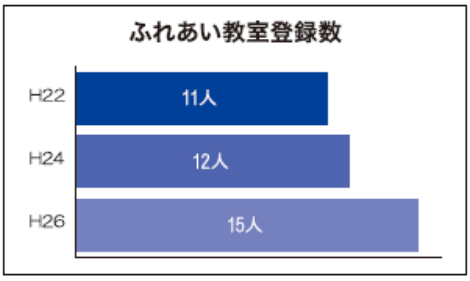
■本年度達成できたことの概略
・

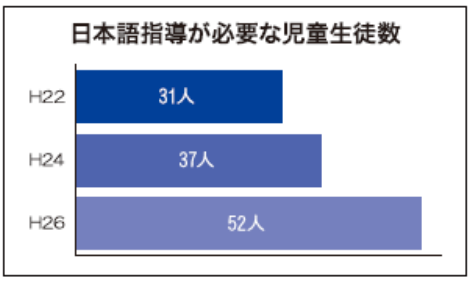
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒A

作戦⑩
個別の支援が必要な子どもを応援します

P





（H27学校教育課調べ）

現状と課題

現在、みよし市教育支援センターでは、支援が必要な子どもとその家庭に対して、専門相談員による「教育相談」や、不登校児童生徒を対象とした「ふれあい教室」の開設などの支援を行っています。その対象となる子どもの数は、年々増えています。また、日本語指導が必要な子どもも、増加傾向にあります。

このような個別の支援を必要としている子どもや家庭のニーズを把握し、一人一人に応じたきめ細やかな支援を行うための体制づくりが求められています。

重点施策　個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実

［施策体系Ⅰ－5－（1）ア P56］

【施策の概要】

現在の教育相談・適応指導教室（ふれあい教室）・日本語初期指導教室を（仮称）みよし市教育センターで引き続き実施し、一人一人をきめ細やかに支援します。また、障がいのある子どもに作成している個別の指導計画を、日本語指導が必要な子どもや不登校傾向の子どもにも広げることで、学校の体制づくりや教員の資質向上を図り、学校やセンターでの支援が適切に行えるようにします。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
拡充 各種「個別の指導計画」の作成支援	支援体制及び各種「個別の指導計画」の様式の検討	（仮称）みよし市教育センター開所 各種「個別の指導計画」の策定	＜個別支援のための機能＞ ・教育相談・ふれあい教室・日本語初期指導教室 各種「個別の指導計画」による支援及び案の見直し	対象児童生徒の各種「個別の指導計画」の作成・実施	→

【成果指標】個別の指導計画の作成割合（市教育支援センターによる調査）

現状（H26）	目標（H32）
日本語指導が必要な児童生徒用：―	日本語指導が必要な児童生徒用：80%
不登校傾向の児童生徒用：―	不登校傾向の児童生徒用：80%

※保護者と共に個別の指導計画を作成することで、「その子」に合った教育が継続的に行える体制づくりをします

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・いじめ・不登校対策委員会を実施し、各機関との連携体制について協議
・ケース検討会議を実施し不登校傾向の児童生徒に対する支援計画を作成
・日本語指導が必要な子どもの個別の支援･指導計画を作成し、個別支援

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実
② H30 行動予定	□各種「個別の教育支援・指導計画」による支援及び内容の見直し □中学校から高等学校への「個別の教育支援・指導計画」の引継ぎを推進する。 □不登校児童生徒のための児童生徒理解・教育支援シートを作成し、支援の充実を図る。 □ハートケア教育主任サポーターによる不登校児童生徒や学校への支援を充実させる。
③ 現時点の状況 （５月末）	□各種「個別の教育支援・指導計画」による支援及び内容の見直し □平成29年度の不登校児童生徒のための児童生徒理解・教育支援シートを次学年及び小学校から中学校へ引き継いだ。 □ハートケア教育主任サポーターが学校との連携を図り、不登校児童生徒及びその保護者を支援している。
④ H31 行動予定	□各種「個別の教育支援・指導計画」の継続的な見直し
⑤ H32 行動予定	□各種「個別の教育支援・指導計画」の継続的な見直し

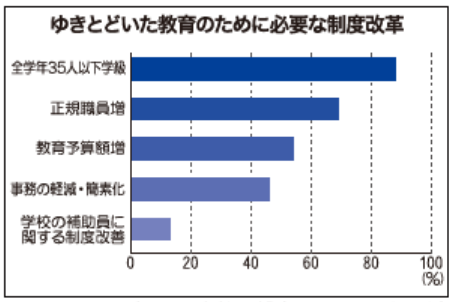
C　本年度の達成状況

■本年度達成できたこと の概略
・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒ A

作戦⑪
一人一人が良さを発揮できる学校づくりをします



（みよし市教員組合によるアンケート）

少人数学級になって、毎日の生活日記に丁寧に目を通してもらえるようになりました。全学年での早期実現を強く望んでいます。
（行政区ヒアリングより）

現状と課題

国や県は、小学校1・2年生と中学校1年生において少人数学級、いわゆる35人学級を実施しています。本市では、義務教育全てでの少人数学級実現を目指し、小学校1・2年生と中学校1年生に加え、平成23年度より小学校3年生の追加実施を始めました。

学級規模が小さくなると、担任の先生は、より一人一人に目が届くようになり、学習面だけでなく生活面でもきめ細かい指導が可能となります。

保護者の少人数学級実現への要望も、年々大きくなっています。

重点施策　小中学校少人数学級体制の拡大

［施策体系Ⅰ－5－（1）イ P56］

【施策の概要】

小学校1年生から中学校3年生までの、全ての学年での少人数学級体制の早期実現を目指します。まずは、平成32年までに、現行の小学校1年生から3年生まで、中学校1年生に加え、小学校4年生と中学校2年生に少人数学級を設置します。

また、少人数学級を活用したより効果的な指導について研究し、実践します。

【進行計画】

拡充	28	29	30	31	32
全学年での少人数学級体制の実現	少人数指導を活用した指導方法についての研究・実践				
	中2追加実施	→	→	小4追加実施	更なる拡大にむけた検討

【成果指標】35人以下学級を実施している学年（学校教育課による調査）

現状（H26）	目標（H32）
小学生 1・2・3年 中学生 1年	小学生 1・2・3・4年 中学生 1・2年

※35人学級体制の学年を拡大すると共に、少人数でのより効果的な指導について研究・実践します

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・中学校全学年での 35 人学級を実現。学級規模が小さくなったことで、担任の先生は一人一人に目が届き、きめの細かい指導が可能になった。

・「主体的・対話的で、深い学び」の実現を目指し、少人数の良さを生かしながら実践を重ねている。

D

担 当 課	学校教育課

① 重 点 施 策	小中学校少人数学級体制の拡大
② H30 行動予定	□小学４、５、６年生の３５人学級実現に向けて、必要となる人員、教室、備品等の教育環境整備を進める。 □少人数指導を活用した指導方法についての研究・実践を継続し、少人数指導のメリットについて具体的にまとめる。
③ 現時点の状況 （５月１日現在）	□３５人学級を中学校３年生にまで拡大した。 （各校の学年最大人数）
④ H31 行動予定	□35人学級を小学校4、5、6年生までに拡大
⑤ H32 行動予定	□少人数指導のメリットを具体的にまとめ、効果的な指導に生かす

	中部	北部	南部	天王	三吉	三好丘	緑丘	黒笹	三好	北	南	三好丘
1	35	29	28	29	31	35	29	35	30	31	28	34
2	27	30	33	29	31	28	27	31	34	30	35	34
3	30	31	32	32	31	27	31	34	33	34	36	35
4	28	32	31	32	28	31	28	30				
5	34	37	29	28	35	36	36	28				
6	40	34	32	30	40	30	40	37				

C　本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒A

作戦⑫
安心・安全・快適な学校環境づくりを進めます

P

市内各校の校舎の建設・改修の状況

中部小	昭和62年建設
北部小	平成14～17年改修
南部小	平成元年改修
天王小	平成25～27年改修
三吉小	昭和55年建設
三好丘小	平成元年建設
緑丘小	平成8年建設
黒笹小	平成19年建設
三好中	平成20～24年改修
北中	昭和56年建設
南中	昭和58年建設
三好丘中	平成18年建設

現状と課題

みよし市の小中学校の建物は、全て耐震化の対策が済んでおり、万が一、大きな地震が起こっても対応できるようになっています。

しかし、学校によっては築後30～40年の校舎もあるため、床の傷みや設備の老朽化などの課題があります。

そこで、みよし市では、平成14年度の北部小学校をスタートに、順次校舎の改修を進めています。子どもが、安心・安全で快適な学校でのびのびと生活ができるよう、学校施設の改修が求められています。

重点施策　大規模改修による学校施設の整備

［施策体系Ⅰ－6－（2）ア P60］

【施策の概要】

老朽化した小中学校の校舎の大規模改修や、体育館照明のLED化を順次進めていきます。時代に合った設備に刷新すると共に、バリアフリー化や省エネルギー化も進めます。また、内装材には木製品を多く使うようにするなど、子どもが温もりを感じられる学校環境の整備を推進していきます。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
拡充 小中学校の施設の計画的な改修	・北中学校大規模改修 →			・三吉小学校大規模改修 →	
	・体育館照明LED化（5校完了） →				

【成果指標】「学校施設が安心・安全・快適である」児童生徒の割合

（みよしの教育に関するアンケート【小5・中2】）

現状（H26）
小学生 84%
中学生 70%

→

目標（H32）
小学生 87%
中学生 75%

※子どもが安心・安全・快適な学校環境だと感じられるよう、きめ細かな改修とともに、大規模改修を推し進めます

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・北中学校大規模改修 2 期工事（北舎：普通教室棟・技術科室棟・体育館）1 月末までに工事を実施

・北中学校大規模改修 3 期工事実施設計（プール・外構）1 月末までに設計完了

D

担 当 課	教育行政課
① 重 点 施 策	大規模改修による学校施設の整備
② H30 行動予定	□北中学校大規模改修3期工事(プール・外構)の実施 □三吉小学校大規模改修1期工事実施設計業務委託(体育館・プール・外構)の実施
③ 現時点の状況 （５月末）	□北中学校大規模改修3期工事の契約を6月に締結予定。平成31年1月までの工期で改修工事を実施 □三吉小学校大規模改修1期工事実施設計業務の契約を4月に締結。平成 31 年 2 月までの履行期間で、設計を実施
④ H31 行動予定	□三吉小学校大規模改修1期工事(体育館・プール・外構)実施 □三吉小学校大規模改修2期工事実施設計(南舎:管理棟)実施
⑤ H32 行動予定	□三吉小学校大規模改修2期工事(南舎:管理棟)の実施 □三吉小学校大規模改修3期工事実施設計(北舎:普通教室棟)実施

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

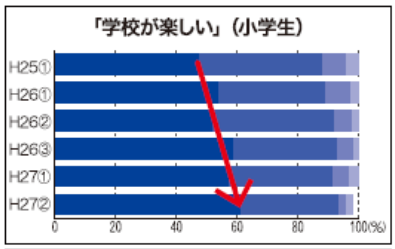
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

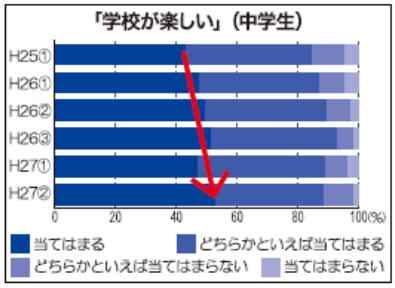
・

⇒A

作戦⑬
１２校が「チームみよし」となりパワーアップします

P





（H27魅力ある学校づくり調査研究事業での調査）

現状と課題

みよし市では平成26・27年度に、文部科学省から委嘱を受け、「魅力ある学校づくり調査研究事業」に取り組みました。これは、中学校区内の全小中学校が連携を密にし、地域全体で笑顔あふれる学校づくりをしていこうとする取り組みです。

この取り組みの結果、学校間が連携をして指導にあたることで、教職員の力量向上や楽しい学校づくり、新たな不登校の子どもを出さないことに対し、効果があることがわかりました。これらの取り組みを市内全12校（小学校8校・中学校4校）に広げ、学校が楽しいと思う子どもを増やすことが期待されています。

重点施策

12校の連携強化による教職員の資質向上

［施策体系Ⅰ−6−（3）ア P62］

【施策の概要】

まずは、中学校区を中心に小小・小中学校間が連携をすることで、発達段階に応じた連続した指導ができるようになったり、教職員自身の学び合いによる資質向上を目指したりします。教職員同士が学び合い、全12校の学校同士がつながることで、子ども理解の深化や指導力の向上を図り、学校が楽しいと思う子どもを増やします。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 「チームみよし」を合言葉とした学校間連携の強化	各中学校区での連携の強化	→	校務支援システム内に教育情報を集約し、連携を強化	→	12校での連携の強化

【成果指標】「学校に行くのは楽しい」児童生徒の割合

（全国学力・学習状況調査【小6・中3】）

現状（H26）
小学生 86.1%
中学生 76.4%

→

目標（H32）
小学生 90.0%
中学生 80.0%

※教職員が学び合い、子ども理解の深化や指導力の向上を図ることで、「学校が楽しいと思う」に「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」子どもを増やします

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・三好中学校区による連携の継続と、三好丘中学校区での小中合同あいさつ運動や部活動交流会など、小中連携活動を充実させた。

・市教育センターライブラリに、各校の研究物や文部科学省資料を整理

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	12校の連携強化による教職員の資質向上
② H30 行動予定	□各校の実践や研究資産を市内小中学校で共有 ・各中学校による小中、小小による連携活動を市内に広める。 ・校務支援システムで各中学校区での取り組みを市全体に広げる。 ・市教育センターライブラリに収蔵されている資料のリストを作成し、校務支援システムにより教職員に周知を図る。
③ 現時点の状況 （５月末）	□各校の外部講師招聘による授業研修計画を集約し、市内小中学校に周知
④ H31 行動予定	□各校の実践や研究資産の整備と活用の促進
⑤ H32 行動予定	□各校の実践や研究資産の整備と活用の促進

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

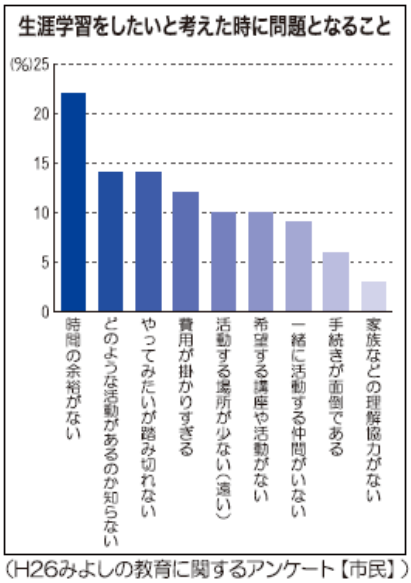
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒A

作戦⑭
サンライブでいろいろなことが学べるようにします

P



（H26みよしの教育に関するアンケート【市民】）

現状と課題

みよし市では、市民一人一人が、生涯を通じて生きがいをもって学ぶことのできる場や機会を充実させるために、幅広い分野にわたる生涯学習講座を開催しています。

平成28年度にオープンするサンライブでは、講座の開催時間に柔軟性を持たせると共に、生涯学習情報の提供方法を改善し、誰もが、いつでも学べる環境づくりをいっそう進める必要があります。今後は、高齢社会を迎え、講座の需要も増すことが見込まれるため、社会情勢と市民のニーズに即した講座の開催がいっそう求められます。

重点施策

サンライブの生涯学習拠点化の推進

［施策体系Ⅱ－1－（1）ア P66］

【施策の概要】

平成28年度にオープンするサンライブでは、夜間や土曜日・日曜日などの講座の開催も可能となります。年齢や性別に関わらず、学習意欲のある人々が、自分にあった講座に参加できるよう、生涯学習情報を市民に広く伝え、市民の生涯学習を活性化していきます。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 生涯学習講座の充実	サンライブでの生涯学習講座の開始	夜間講座の充実	土曜日・日曜日の講座の充実	講座体系の見直し	新たな体系による運営

【成果指標】生涯学習講座を受講した人の数（生涯学習課調べ）

現状（H26）
延べ2,563人

→

目標（H32）
延べ4,500人

※講座の種類や内容をより充実させ、受講者数の増加を目指します

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・生涯学習講座を、公開講座 2 講座、生活創造講座 84 講座、国際理解講座 37 講座、情報・通信講座 60 講座、合計 183 講座を開催した。

・夜間や土曜日に 43 講座を開催し、生涯学習機会を増やし、勤労者の生涯学習を支援した。

D

担 当 課	生涯学習推進課

① 重 点 施 策	サンライブの生涯学習拠点化の推進
② H30 行動予定	□生涯学習講座を、公開講座2講座、生活創造講座を97講座、国際理解講座を33講座、情報・通信講座60講座、合計192講座を予定している。 □夜間や土曜日、日曜日に講座を開催することにより、より参加しやすい生涯学習講座にする。
③ 現時点の状況 （５月末）	□春夏講座実施状況

講座名	講座数	回数	定員	申込数
生活創造講座	23	60	330	426
国際理解講座	10	72	168	181
情報・通信講座	21	109	266	253
公開講座	1	1	20	18
合計	55	242	784	878

④ H31 行動予定	□講座体系、運営体制の見直し
⑤ H32 行動予定	□新たな体制による運営

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒A

作戦⑮
市民が発信する生涯学習活動を応援します

P

平成27年度 市内で活動する生涯学習活動登録団体

・渡辺民謡会
・演劇グループ遊
・西川流百花の会
・愛友クラブ
・みよし大正琴クラブ
・たまゆら
・居合道クラブ
・樊孟孫式太極拳研究会
・三好健康太極拳
・筑紫丸和会
・和太鼓龍桜流 三燦
・みよし子ども音楽セミナー「音遊合唱団」
・天辰神容流剣詩舞会
・天辰神容流岡崎神容館みよし詩吟部
・和太鼓龍桜流 轟乃鼓
・みよし塚本写真塾
・パッチワークサークル

現状と課題

みよし市では、生涯学習講座などで出会った市民が、気の合う仲間と共に自主的に活動する生涯学習団体を作っています。現在、本市には17の生涯学習活動登録団体があり、スポーツから伝統工芸まで幅広い活動を展開しています。

これらの団体が成果を発表できる場を準備したり、継続して活動ができるよう支援をしたり、団体を作りたいと思っている人たちを応援したりすることで、市民が発信する生涯学習活動を活性化することが求められています。

重点施策

地域や自主的サークルによる生涯学習の推進

[施策体系Ⅱ−1−(1)イ P66]

【施策の概要】

生涯学習団体が継続して活動できるよう支援をしたり、生涯学習を積極的に推進する地区や新たに団体活動を始める市民の自主的サークルを助成したりします。また、それらの団体が学習成果を発表できる機会をつくったり、団体の活動を市民に広く伝えたりすることで、市民主体の生涯学習活動を活性化します。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 生涯学習活動団体への支援	生涯学習活動団体への助成	→	学習成果の発表方法の充実	生涯学習活動団体の広報	→

【成果指標】生涯学習活動を行っている団体の数（生涯学習課調べ）

現状（H27）
生涯学習活動登録団体
17団体

→

目標（H32）
生涯学習活動登録団体
30団体

※生涯学習が市民の中に継続的に根付くよう、生涯学習活動団体づくりを応援します

<参考:29年度末の達成状況の概略>

・生涯学習活動団体として7団体へ助成し、各団体特色ある講座を開講

・生涯学習発表会を3月3日(土)、4日(日)に開催

D

担 当 課	生涯学習推進課

① 重 点 施 策	地域や自主的サークルによる生涯学習の推進
② H30 行動予定	□生涯学習の普及、促進を目的に、生涯学習活動を積極的に推進する団体等に、活動費用の一部を助成する。 □生涯学習に取り組む団体等に、活動の成果を発表する機会を提供するため、生涯学習発表会を開催する。
③ 現時点の状況 （５月末）	□生涯学習補助金申請団体 団体名 / 講座名 / 補助金額 東山行政区 / 東山大学講座 / 33，750円 □生涯学習発表会 平成31年2月20日(水)から3月3日(日)にかけて、作品展示、芸能発表、お茶会を開催する予定。
④ H31 行動予定	□生涯学習団体への助成 □生涯学習発表会の実施 □生涯学習活動団体の広報
⑤ H32 行動予定	□生涯学習団体への助成 □生涯学習発表会の実施 □生涯学習活動団体の広報

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

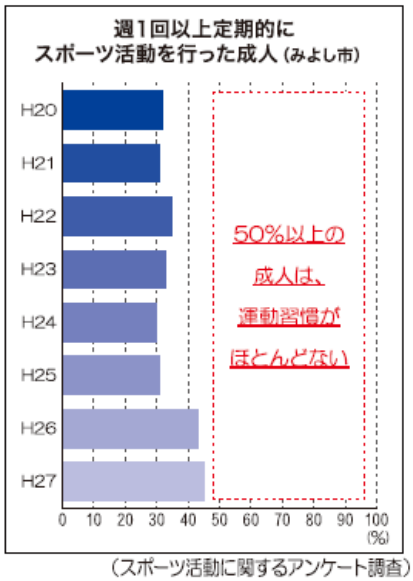
・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）・

・

⇒A

作戦⑯
市民がいろいろなスポーツに親しめるようにします



（スポーツ活動に関するアンケート調査）

現状と課題

全国的に、子どもの体力は低下傾向にあり、スポーツを行う子どもと、行わない子どもは二極化の傾向にあります。

これは本市の大人にもいえることであり、ランニングやチームスポーツに日頃から親しむ市民がいる一方、運動習慣のほとんどない成人も50%以上います。

みよし市では、地域全体でスポーツに親しむ環境を整備し、みんなで心身の健康を高めていくことが求められています。市民が生涯にわたり健康な暮らしを送るため生涯スポーツ推進の必要性が高まっています。

重点施策

総合型地域スポーツクラブの育成

［施策体系Ⅱ－2－（1）ア P67］

【施策の概要】

スポーツ推進計画「みんなでスポーツ　いいじゃんみよし」に基づき、スポーツ活動の支援や、スポーツを通じたコミュニティづくりを行っています。総合型地域スポーツクラブに関しては、現在、「なかよしクラブ」と「三好さんさんスポーツクラブ」の二つのクラブが活動しています。今後は、きたよし地区での新たなクラブ設立と活動を支援し、市民がスポーツに親しむ機会を増やしていきます。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 総合型地域スポーツクラブの支援と環境整備	きたよし地区スポーツクラブの設立	小中学校とスポーツクラブの連携強化	クラブマネージャーなどの資格取得に対する支援	活動拠点となる小中学校の屋外照明設備の設置	小中学校の部活動の支援

【成果指標】総合型地域スポーツクラブで活動した人の数

（スポーツ行政概要）

現状（H26）
延べ42,641人

→

目標（H32）
延べ50,000人

※新たなクラブを設立することで、総合型地域スポーツクラブで活動する市民の裾野を広げます

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・中学校部活動支援として、なかよしクラブではソフトテニス、三好さんさんスポーツクラブではバレーボールをそれぞれ受け入れた。

・市内 3 スポーツクラブに対して運営補助金を交付。1 クラブにはクラブハウス整備費補助金を交付。

D

担 当 課	スポーツ課
① 重 点 施 策	総合型地域スポーツクラブの育成
② H30 行動予定	□市内3総合型地域スポーツクラブによる、レクリエーションスポーツフェスタ等のスポーツイベントへの協力及び事業PR
③ 現時点の状況 （５月末）	□H30年2月開催の総合型地域スポーツクラブ連絡会において、市内3クラブにレクリエーションスポーツフェスタ等のスポーツイベントへの協力及び事業PRについて打診
④ H31 行動予定	□小中学校の屋外照明設備の設置についてスポーツクラブと小中学校と協議を行う。
⑤ H32 行動予定	□小中学校の部活動支援を行う。

C　本年度の達成状況

■本年度達成できたこと の概略

・

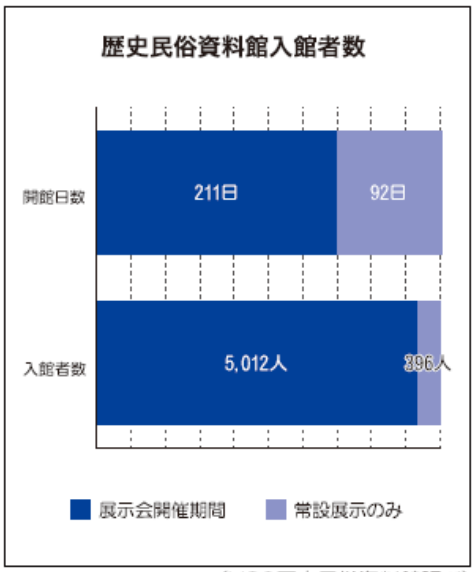
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒A

作戦⑰
みよしの歴史や文化を広く市民に発信します

P



（H26歴史民俗資料館調べ）

現状と課題

歴史民俗資料館は昭和57年11月に開館して以来、市内及び市外からたくさんの方々が見学に訪れました。しかし、年に4回開催される企画展･特別展の開催期間は多数の入館者があるものの、常設展示のみの期間の入館者数は伸び悩んでいます。また、本市の誇れる遺産である猿投古窯関係が常設展示では見学できないという課題もあります。

このため常設展示を更新し、市民に猿投古窯をはじめ、本市の歴史や文化を広く発信していくことが必要となっています。

重点施策

歴史民俗資料館展示資料の充実

［施策体系Ⅱ－3－（1）ア P70］

【施策の概要】

歴史民俗資料館の常設展示をリニューアルし、猿投古窯関係の展示を、開館時にいつでも見学できるようにします。民具についても展示物を更新し、歴史の移り変わりなど、みよしの歴史や文化を学習できるようにします。また、企画展・特別展についても郷土の偉人・文化・民俗・考古などさまざまなテーマで充実していきます。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 歴史民俗資料館常設展示の更新	展示室リニューアル工事	展示室リニューアルオープン	→	市制施行10周年記念事業準備	市制施行10周年記念事業

【成果指標】みよし市の歴史に関心のある市民の割合

（みよしの教育に関するアンケート【市民】）

現状（H26）有数の陶器産地であったことを知っている27% → 目標（H32）有数の陶器産地であったことを知っている60%

※展示のリニューアルなどで資料館に訪れる人を増やし、市民の歴史に対する関心を高めます

D

＜参考:29年度末の達成状況の概略＞

・企画展（「みよし最後のやきもの」、「昆虫展」、「ひな人形展」）並びに特別展「伊勢門水展」を開催
・石川家住宅で「夏まつり」「町なかアートギャラリー」を開催。3月「クイズラリー」を開催
・資料館リニューアルを記念して、陶器づくりの講座を開催

担 当 課	資料館
① 重 点 施 策	歴史民俗資料館展示資料の充実
② H30 行動予定	□企画展（3回）、特別展（1回）を開催する。 □常設展示で新たに「むかしの道具」に関連したテーマ展示を計画し実施する。 □夏季に土器作り・石器作り体験講座を開催する。 □夏季に土器形クッキー（ドッキー）作りの体験イベントを開催する。 □市指定文化財である黒笹27号窯を含む市内文化財めぐりを実施する。
③ 現時点の状況 （５月末）	□春季企画展を現在開催中（4月28日から6月24日まで）
④ H31 行動予定	□市制施行10周年記念事業準備
⑤ H32 行動予定	□市制施行10周年記念事業

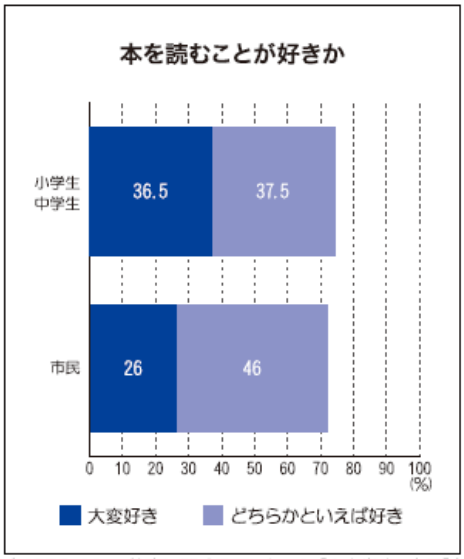
C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略
・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）
・

⇒A

作戦⑱
読書好きな市民が増えるような環境づくりをします



（H26みよしの教育に関するアンケート【小中学生・市民】）

現状と課題

サンライブに新しい図書館ができます。新図書館は30万冊を超える蔵書収容能力を持つ、子どもからお年寄りまで皆が利用しやすい施設となります。

１階に生活に関する一般図書を配架し、新たにティーンズコーナーを設置します。また、定期的におはなし会を開催するなど、新しい魅力がいっぱいです。

平成26年の調査で「本が好き」と答えた市民は、大人も子どもも約70%ですが、新しい図書館の完成で、本に親しむ市民がますます増えることを期待しています。

重点施策　サンライブでの充実した図書館サービスの推進

［施策体系Ⅱ−3−（2）ア P72］

【施策の概要】

新図書館は、平日・土曜日・祝日は午後7時まで、日曜日は午後6時まで開館します。新刊本は毎年1万冊以上、雑誌は400誌を目標に購入します。そして、1階に一般図書の中でも生活に関する図書を配架し、児童室の他に新たにティーンズコーナー、おはなしのへや、閲覧室を設置します。また、第3次子ども読書活動推進計画を策定します。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 新図書館の整備	サンライブのオープン、読書ノートの導入	子ども読書活動推進計画の改定	蔵書数233,000冊以上	図書館の管理運営方法の見直し	→

【成果指標】「本を読むことが好き」児童生徒・市民の割合

（みよしの教育に関するアンケート）

現状（H26）
小学生・中学生 74%
市民 72%

→

目標（H32）
小学生・中学生 80%
市民 80%

※本に触れる機会を増やすことで、本を読むことが好きな子ども、市民を増やします

<参考:29 年度末の達成状況の概略>

・配本事業を 10 月より試行で実施。1 月末現在延べ 7 校からの申請。

・サンライブ」の貸出者数は約 3 倍に、貸出冊数は約 2 倍へと増加。利用者の要望に応えるため、市内利用者へ 5 冊までリクエスト受付を行った。

D

担 当 課	生涯学習推進課
① 重 点 施 策	サンライブでの充実した図書館サービスの推進
② H30 行動予定	□中央図書館の蔵書冊数を250，000冊以上とする。 □生活に関する一般図書を重点的に購入し拡充する。 □学校支援用図書を購入し各学校の調べもの学習などに提供できるようにする。 □各学校への配本事業を引き続き実施する。
③ 現時点の状況 （５月末）	□中央図書館の蔵書冊数は243，800冊(4月末現在) □生活に関する一般図書を先行して発注
④ H31 行動予定	□図書館の管理運営方法の検討(指定管理者制度)
⑤ H32 行動予定	□図書館の管理運営方法の決定(委託又は指定管理者制度)

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

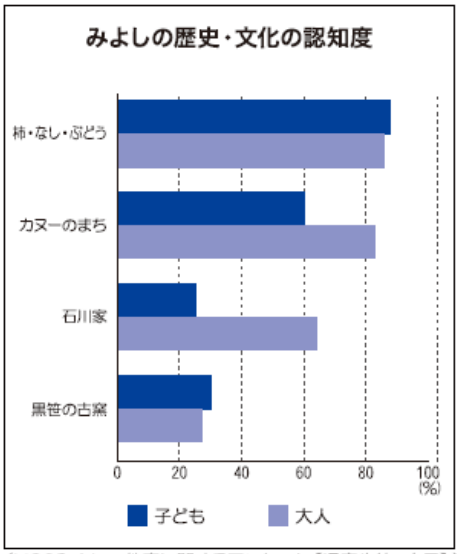
■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒ A

作戦⑲
みよしのことが大好きになる学習をします

P



（H26みよしの教育に関するアンケート【児童生徒・市民】）

現状と課題

みよし市の有名な「人・もの・こと」というと、多くの子どもは「柿・なし・ぶどう」のことを思い浮かべます。これらの果樹は、市外でも人気を博しており、みよしの特産物として定着しています。

しかし、明治時代の生活の様子が石川家住宅に保存されていることや、「カヌーのまち」として20年の歴史を重ねていることなどが、子どもたちに広く理解されているとはいえません。これからのみよしを支える子どもたちに、みよしの良さを伝え、「ふるさとみよし」に誇りを感じられるようにすることは、喫緊の課題です。

重点施策

ふるさと学習の推進

［施策体系Ⅲ－1－（1）ア P78］

【施策の概要】

各学校でこれまでに開発された地域教材を集約して、みよし市に関する学習をまとめたり、「ふるさとみよし」を学ぶことのできる体験的プログラムを開発したりします。このふるさと学習を進めるなかで、教職員にもみよし市を知ることのできる研修を行ったり、保護者に対しても啓発を行ったりします。

【進行計画】

	28	29	30	31	32
新規 ふるさと学習の推進	副読本「みよし」の改訂	「ふるさとみよし」体験的プログラムの開発	「ふるさとみよし」体験的プログラムの実践	新学習指導要領に対応した副読本の改訂	「ふるさとみよし」体験的プログラムの見直し

【成果指標】「みよしのことが好きである」児童生徒の割合

（みよしの教育に関するアンケート【小5・中2】）

現状（H26）
小学生　―
中学生　―

→

目標（H32）
小学生 80%
中学生 80%

※ふるさと学習を推進することで、「ふるさとみよし」が好きと感じる子どもを増やします

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・副読本「みよし」を活用と市内のどのような施設の見学や体験活動が行われているかを調査し、データベース化

・初任者教職員を対象に「みよしを知ろう」という研修を実施

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	ふるさと学習の推進
② H30 行動予定	□市内見学・体験活動データベース見直し □副読本「みよし」の教職員への配付
③ 現時点の状況 （５月末）	□市内見学・体験活動データベース上での情報共有の開始 □副読本「みよし」の新規採用教職員への配付
④ H31 行動予定	□15版副読本「みよし」の編集・出版準備
⑤ H32 行動予定	□15版副読本「みよし」の編集・出版

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたこと の概略

・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）

・

⇒A

作戦⑳
地域の人と一緒に学ぶ学校づくりをします

P

市内の小中学校で行われている
ボランティアの例
- 絵本・図書の読み聞かせ
- 外国語活動の授業支援
- 図書館整備・貸出補助
- 家庭科授業補助
- 登下校の見守り（スクールガード）
- 校外学習の引率補助
- 学校の樹木の伐採
- 花づくり

学校が助けて欲しいことを伝えてくれれば、もっと地域の人も協力できると思います。協力することが当たり前の地域になると良いです。
（行政区ヒアリングより）

現状と課題

現在、小中学校では、たくさんのボランティアの方が活動しています。絵本の読み聞かせや、図書館司書の補助、そしてミシンの使い方の指導補助など、さまざまな場面で多くの保護者が手助けをしてくれています。また、校外学習の際には、地域の方も安全を見守ってくれています。

地域の活力を生かした教育環境整備は、子どもにとっても支える方々にとっても、大変有意義な取り組みとなっています。大人同士も学校をきっかけにつながり合うことで、地域全体の活力を高めることが期待されています。

重点施策　学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集

［施策体系Ⅲ−2−（1）ア P79］

【施策の概要】

学校ごとに独自に取り組んでいる学校ボランティアの取り組みを、市内の全小中学校に広げます。市全体で地域の活力を取り入れた教育を行うことで、より開かれた学校づくり、学校をきっかけとした地域の活性化を目指します。また、地域の人や大学生が勉強を教える地域未来塾を開いたり、ボランティアと学校を結びつける人材の配置を目指したりするなど、家庭・地域・学校のより一層の連携を目指します。

【進行計画】

新規	28	29	30	31	32
学校ボランティアの仕組みの拡充	地域未来塾の実施（サンライブ内）	市民への学校ボランティア制度の周知強化	ボランティア人材バンクの完成	地域コーディネーターによるボランティアの派遣モデル実施	地域コーディネーターの配置促進

【成果指標】学校ボランティアを活用する取り組み（学校教育課調べ）

現状（H26）
各学校での創意工夫による取り組み

→

目標（H32）
地域と学校の連携を促進する地域コーディネーター　中学校区1名

※家庭・地域・学校の連携が、市全体に広がっていくよう、地域コーディネーターの配置を目指します

＜参考:29 年度末の達成状況の概略＞

・「みよし未来塾」へ夏休み 10 日間に延べ 375 人、冬休み 3 日間に延べ 105 人の中高生が参加。冬休みは実施会場を市内 2 箇所に拡大。

・「広報みよし」で学校支援ボランティアを募集（登録 82 名）

D

担 当 課	学校教育課
① 重 点 施 策	学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集
② H30 行動予定	□各校のボランティア活用に関するアンケートの実施（ボランティア、学校） □安心して参加してもらうためのボランティア保険等の予算の獲得準備 □市民ボランティアを発掘するための広い広報
③ 現時点の状況 （５月末）	□地域未来塾（夏休み）の実施計画作成 □HPを通して、学校支援ボランティアを募集
④ H31 行動予定	□コミュニティスクール実現に向けた地域コーディネーターによるボランティアの派遣モデルを実施
⑤ H32 行動予定	□地域コーディネーターの配置拡大

C 本年度の達成状況

■本年度達成できたことの概略

・

■来年度の具体的な行動予定（計画の見直し）・

・

⇒A